氏名 李 元重（リ ウォンジュン）

所属 キャリアデザイン学科

職名 准教授 宗教主任

専門領域 日本プロテスタントキリスト教史 日韓キリスト教関係史 同志社と新島襄の歴史

専門の概要

1859 年、日本の開港・開国とほぼ同じ時期に日本でプロテスタント宣教が始まりました。キリスト者になった日本人は、その新しい宗教を隣国である朝鮮の人々にも伝えよとしました。一方で、朝鮮でも近代文明と共にキリスト教伝道が始まっており、日本よりキリスト教が民衆の中で活発に受容されました。両国は主にアメリカから影響を受けたキリスト教が芽生えたところには共通点があります。しかし、社会状況と受容の階層、民族主義との関りによって、その発展の様子は違いました。日本帝国は朝鮮半島を植民地化したので、両国のキリスト教の関係は国家権力、植民地化政策など政治や社会問題と絡み合って複雑な様子で現れました。それを明らかにするために、わたしは主に植民地朝鮮に在留していた日本のキリスト教を研究しました。その他、戦時下まで同志社大学と関連するキリスト者の神学と活動について研究業績を残しました。最近の関心は、戦後の日本キリスト教団の活動、内部葛藤であります。

備考

（共著）

神田健次他『100 年前のパンデミック』新教出版社、2021 年

（学術論文―単著）

「植民地朝鮮における日本基督教会－朝鮮中会建設から 15 年戦争の開始まで」『基督教研究』2014 年、76 巻 1 号、pp.103～121

「植民地朝鮮における日本基督教会：朝鮮伝道の開始から朝鮮中会の建設まで」『キリスト教社会問題研究』2014 年、63 号、pp.53～84

「戦後朝鮮半島における日本人教会」『キリスト教社会問題研究』2016 年、65 号、pp.43～78

「戦前宗教関連法案をめぐる宗教界の対応－キリスト教界の対応を中心に」『キリスト教史学』2017 年、71 集、pp.153～174

「식민지 조선에 존재했던 일본 기독교회(植民地朝鮮に存在した日本基督教会)」『韓国教会史学会誌』2018 年、50 集、pp.211～248

「일제 말기의 기독교 합동 운동 (日帝末期のキリスト

教合同運動)」『韓国基督教神学論叢』、 2018 年、110 集、pp.221～247
「同志社大学における尹東柱詩碑建立の経緯と意義―ワンコリアの夢と新島精神の遭遇」『同志社談叢』2019 年、39 号、pp.37～61
「魚木忠一の『日本基督教』を再考する－挫折した土着化神学への試み」『キリスト教社会問題研究』2019 年、68 号、pp.91～115
「竹中勝男は二本のキリスト教をどのように理解したか」『キリスト教社会問題研究』2021 年、第70 号、pp.63～91

キーワード
キリスト教 植民地朝鮮 同志社 新島襄